

【山崎名誉主宰の俳句】

さくら散る

山崎 聰

山の雪きのう見てまたきょうも見て  
立春をすぎたるころの山と川  
もうすこし遊んでいたいさくらさくら  
さくら見にさそわれており町に住み  
急ごうかさくらが見えるところまで  
もう一度ふりかえり見て春の月  
さくら散って彼のことまた彼のこと  
明日のことすこし思いて春の星  
さくら散る縁側の隅っこにいてひとり  
四月一日雨の休日として暮れる